

福 祉

1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 生徒の主体的な学びを実現する学習指導の工夫

学習指導要領では、科目の目標及び内容が、育成を目指す資質・能力である「知識及び技術」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に整理されている。また、福祉科においては、豊かな人間性を育み、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことを目標としており、このような態度などを養うためには、他者との討論により課題の解決策の考案などを行う学習活動、他者の考えに耳を傾け、対立する意見であってもそれを踏まえながら自己の考えを整理し伝える学習活動、地域を学びのフィールドとして、様々な職業や年代の地域住民などつながりを持ちながら信頼関係を構築し、協働して課題の解決などに取り組む学習活動、職業資格の取得やコンテストへの挑戦などを通して自ら学ぶ意欲を高める学習活動などが大切である。

ア 福祉科教育のより一層の改善・充実

地域や福祉施設、産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験活動を積極的に取り入れることが重要である。

イ 評価の方法

生徒が自らの学習状況を把握し、実習などの場面において、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかという意思的な側面をていねいに評価することが、福祉科においても重要である。

(2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫

評価の具体的な方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や生徒による自己評価、相互評価の状況を、評価時の参考資料として活用することが考えられる。その工夫としては、ワークシートなどを活用して、自らの学習を振り返り、知識や技術、思考力・判断力・表現力等を身に付けることに向け、積極的に粘り強く取り組んでいたかや、新しい課題発見に繋げることができていたかなどについて記載させ、評価することが考えられる。

2 指導と評価の計画例

(1) 社会福祉基礎（4単位）の計画例

ここでは、社会福祉基礎の科目における、主体的な学びを実現する学習指導の例及び、地域の施設で小学生と交流学習を行う実践例を示す。

ア 単元〈生活を支える社会保障制度〉の目標

- ① 社会保障制度の概要と現状について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- ② 社会保障制度の現状に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的根拠に基づいて創造的に解決する。
- ③ 社会保障制度を地域や生活と関連させて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

イ 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を支える社会保障制度の概要と現状について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	生活を支える社会保障制度の現状に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的根拠に基づいて創造的に解決する。	社会保障制度を地域や生活と関連させて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画 (25 時間)

時間	ねらい、学習活動等	重点	記録	備考 (生徒のB規準)
1～4 【4時間】 社会保障制度の意義と役割	ねらい：社会保険・社会福祉・公的扶助・社会手当・公衆衛生及び医療など日本の社会保障制度の意義や機能などの基本的な考え方について理解する。 学習活動：社会保障の基本的な仕組みを日本国憲法と関連付けて、社会福祉の各分野が生まれてきた社会背景や概要について、調べ学習やグループ協議を行う。	知		日本国憲法に基づく社会保障制度の基本的な仕組みについて、おおむね理解している。
日本国憲法との関連付けにおいては、教科「公民」の知識を活用する。				
5～7 【3時間】 生活支援のための公的扶助	ねらい：生活保護制度を中心に公的扶助について理解するとともに、生活困窮者自立支援制度や子どもの貧困などを含めた複合的な課題を理解する。 学習活動：公的機関のHP、パンフレット等を活用して調べ学習を行う。また、自身の住む市町村の相談・サービス提供体制について理解するために調べ学習を行う。	知	○	公的扶助の諸制度や、その様々な課題について、おおむね理解し、正しい知識を身に付けている。
ICT 端末を効果的に活用し、調べ学習を進め、地域資源についての理解を深める。				
8～11 【4時間】 児童家庭福祉と社会福祉サービス	ねらい：児童及び家庭を支える社会福祉サービスの概要及び現状について理解するとともに、子育て支援、少子化対策、児童の虐待など支援が必要な課題について考察する。	思		児童及び家庭を支える社会福祉サービスの概要及び現状について理解するとともに、課題を分析し、おおむね合理的に考察している。

	<p>学習活動：授業の導入に新聞記事やニュース動画を活用して現代の家庭の課題を調べ、解決策についてまとめ、考察するためにロールプレイングやグループ協議を行う。</p>			
	<p>児童及び家庭を支える社会福祉サービス、子育て支援に関しては、教科「家庭」の知識を活用する。</p>			
<p>12～16 【5時間】 高齢者福祉と介護保険制度</p>	<p>ねらい：高齢者を支える社会福祉サービスについて、介護保険制度と関連付け、関係する法規や各制度の背景、理念、社会福祉サービスの概要及び現状を把握し、福祉的な見方・考え方を働かせて考察する。</p> <p>学習活動：地域の現状を把握し問題解決に向けた方策を考えるために、地域で生活する高齢者の事例を基にどのような高齢者サービスがあるかを調べて整理する。</p>	思	○	<p>高齢者を支える社会福祉サービスの概要及び現状を把握し、おおむね合理的に考察し記述している。</p>
	<p>地域の一員として保健・医療・福祉などの地域資源を知り、事例を自分事として捉え、課題発見につなげられるように取り組む。</p>			
<p>17～21 【5時間】 障がい者福祉と障がい者総合支援制度</p>	<p>ねらい：障害者総合支援制度と関連付け、関係する法規や障がいの概念、障がい者の実態、社会福祉サービスの概要と現状、地域共生社会について理解するとともに、自らが居住する地域や生活に関する課題を発見し、創造的に解決する態度を育成する。</p> <p>学習活動：体験学習や、グループ協議、全体発表・共有・意見交換を通して、障がい者福祉の課題について主体的に考えることで、社会的障壁や生活課題についての理解を深める。</p>	主	○	<p>グループ協議や全体発表・共有・意見交換に参加し、おおむね協働的に学び、自らが居住する地域や生活に関する課題の解決に粘り強く取り組もうとしている。</p>
	<p>地域共生社会への理解について、教科「公民」、「家庭」の知識を活用する。</p>			

22～25 【4時間】 介護実践に 関連する諸 制度	ねらい：人間の尊厳と自立に関わる権利擁護や個人情報の保護、保健・医療・福祉等に関する諸制度について整理する。	主	介護実践に関する諸制度について学んだことをおおむね活用し、地域の課題に関心を持ち、その解決に向けて粘り強く取り組もうとしている。
	学習活動：保険や医療の諸制度、医療関係者、医療関連施設、教育や育児・介護休業制度も含めた雇用関係などに関する制度について、地域の専門職による講話などを通じて、地域の社会福祉施策と関連付け、諸制度の目的や役割についてまとめる。		地域の一員として地域の保健・医療・福祉体制などの地域資源の理解を深めるため、教科「保健」、「家庭」での学習を活用する。

エ 学習指導案（18・19時間目／25時間中）




- ・単元：生活を支える社会保障制度 オ 障害者福祉と障がい者総合支援制度


1 本時の目標

障がい者の現状と生活のしづらさについて、体験学習で気付いたことを基に考察し、その解決方法について主体的に考える態度を養う。

【評価の観点】「主体的に学習に取り組む態度」

2 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	備考 (評価規準・評価方法)
導入	・前時の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に実施した車椅子とアイマスク体験について、前時に入力したワークシートを使用して振り返る。 ・本時のねらい、評価について説明する。 	  <p>前時使用のワークシート</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・個別学習 前時の体験から、生活がしづらいと感じた場面と解決方法を考える。 ・グループ学習 個別ワークの内容を共有し、班としての解決策をまとめてスライドを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内、廊下、玄関、生徒ホール（売店・自動販売機）で班分けをする。 ・「体験まとめワークシート」の個別ワークを実施する。 ・タブレットで撮影した、生活がしづらい場面の画像をスライドに使用して作成する。 ・その解決方法をグループで考察し、まとめる。 	 <p>本時ワークシート「体験まとめワークシート」</p> <p>[評価規準] 障がい者の現状と生活のしづらさについて、体験学習を通して課題を発見し、グループ協議や全体発表に参加して協働的に学び、主体的に考えようとしている。</p>

展開		・班で作成した解決策の修正などを行うために、生成 AI にも解決策を出力させる。	[評価方法] ワークシート スライド例（ワークシートにも添付している） 
生成 AI の出力は、参考の一つであり、生徒の体験からの気づきに補完するものとして扱わせる。			
	・一斉学習 班ごとに発表する。	・各班の発表について、感想をワークシートに入力する。	
班の意見と生成 AI の回答を比較させる項目を設ける。			
まとめ	・ワークシートの提出 ・次回予告	・自身の役割や、体験を通して課題発見につながられたかについて自己評価する。	

オ 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) 体験学習を通しての気づきを深い学びにつなげる

本事例では、体験を通して課題を発見し、その解決方法を考察することで深い学びにつなげている。また、体験からの学びを「ノーマライゼーション」、「共生社会」等の理念に結び付ける授業を展開したり、実施後には、深い学びにつながる効果的な授業方法だったのかを、授業の様子やワークシート等を活用して評価し、授業改善に反映させたりすることが考えられる。

(イ) ICT 端末の効果的な活用と福祉科における生成 AI の活用方法の考察

本事例では、生成 AI を活用する機会を設け、生徒同士の協議で挙がらなかった視点について考えさせている。また、グループでの意見と生成 AI の出力との比較し、福祉科における生成 AI 活用のメリットやデメリットを考えさせ、生成 AI の活用方法を考察させることも考えられる。

(ウ) 評価 C の生徒への手立て

ワークシートの設問の主旨について解説して、他者の気づきの中から共感できそうなものについて考えるように促したり、進捗状況によっては、課題の提出期限を延長して、取り組む時間を確保したりすることなどが考えられる。

【実践事例】

ここでは、高校生が小学生と一緒に福祉施設を訪問し、高校生が小学生をファシリテートしながら、バリアフリー化された施設の特徴を理解する学習についての実践事例を示す。

◆科目「社会福祉基礎」における2単位時間（50分×2時間）の指導と評価の計画

1 本時の目標

- (1) 身体障がい者の生活の実際に関する知識に基づき、小学生に障がい者の特徴や生活を説明することができる。 [評価の観点]思考・判断・表現
- (2) 地域の施設を見学し、障がい者の生活について課題を見付けようとしたり、主体的に小学生と交流しようとする。 [評価の観点]主体的に学習に取り組む態度

2 本時の展開 (2単位時間 移動時間20分を含む)

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準
10分	各学校から健康福祉センターに移動する	<ul style="list-style-type: none"> 交通ルール遵守 まとまって移動 	
10分	(導入) ・小学生2～3名と高校生2～3名でグループを作り、自己紹介を行い交流する。 ・グループごとに健康福祉センターの施設を見学し、バリアフリー化された施設の特徴を発見することを確認する。(※) 	<ul style="list-style-type: none"> 小学生が、バリアフリー化された施設の特徴を発見できるように高校生が誘導し、発見した工夫について解説、説明を行う。 複数のグループで見学場所が被らないように、見学順番とスケジュールを確認する。 小学生が楽しく、安全に見学できるように、見学前に高校生と十分にコミュニケーションをとる。 	【主体的な態度】 世代間交流の意義を理解し、積極的に小学生と関わろうとしている。
50分	(展開) 【グループ活動】 グループごとに、順番に5つの場所へ移動し、発見した施設の特徴を高校生が解説する。 ①玄関ホール ②公衆浴室 ③休憩室と自動販売機 ④廊下 ⑤身障者用トイレ 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生は、小学生が理解できる言葉で、分かりやすく伝える。 小学生が施設の特徴を発見できるように、ヒントを出すなど工夫する。 小学生が施設の特徴を発見することが楽しくなるように話し方を工夫する。 丁寧な言葉遣いで、小学生の模範となるように行動する。 	【思考・判断・表現】 施設について、小学生に興味をもってもらえるように説明することができる。
20分	(まとめ) 【グループ活動】 見学を終えて、小学生から質問をしてもらい、高校生が答える。 小学生全員から、一番驚いたこと、新しく分かったことなどを発表してもらう。 高校生は全員、小学生と一緒に施設の見学をして感じたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 高校生が答えられなかった質問を全体で共有し、教員が回答する。 小学生が、学校でまとめられるように、分かりやすく伝える。 	
10分	健康福祉センターから各学校へ移動する。	<ul style="list-style-type: none"> 交通ルールを遵守 まとまって移動 	

(※) 福祉施設におけるバリアフリー化について着目するポイント

場 所	ポイント
①玄関ホール	段差のない玄関・靴の履き替えで座れるベンチの設置・公衆電話の設置高さ
②大衆浴室	スライド式の扉・段差のない脱衣所・洗い場の鏡の両サイドに縦型の手すり
③休憩室の自動販売機	点字の表示・コイン投入口の高さ・商品の選択番号ボタン
④ロビー・廊下	手すりのバーの直径・手すりの高さ・手すりの端部のカーブ
⑤身障者用トイレ	スライド式のドア・手洗い台の高さ・角度のついた鑑・便座までの導線